

# 生計を考える

公的社会保障 + 企業内保障の内容を把握し、不足を補う

## ■ 保障は全体で考える

自分自身にかかわる公的保障（社会保険・国民健康保険など）と所属している組合共済や雇用されている企業内福利厚生などをきちんと把握し、そのうえで足りない保障を自分自身で補うという考え方をしましょう。

近年、毎年のように公的保障が削減されている状況や実質賃金さが下がる状態も踏まえ、可処分所得をいかに増やすか、考えることが大切です。

例えば…、死亡など万が一のことがあったら、厚生年金に加入している場合には、遺された家族は「遺族年金」を受け取ることができます。また、入院することがあった場合には「傷病手当金」があります。さらに組合共済や勤務先の福利厚生制度などからも支給される場合もあります。こうした補償を把握し、それでも足りない部分を「私的保障」で補いましょう。

## ■ 固定費と生活費

家計を把握し、資金計画を点検しよう

家計の収入と支出の現状を、例を参考に把握しましょう。

次に、将来の資金準備のために必要な貯蓄額についても、確認してみましょう。

これらの把握ができれば、必要な貯蓄額を収入から引いてみましょう。

残りの収入で固定費と生活費を賄えるか確認しましょう。賄うことができない場合は、家計の見直しに取り組み、同時に資金計画に無理がないかを確認しましょう。

ポイントは固定費の見直し。

生活費の切りつめはくたびれてしまう。

### STEP1 毎月の収入を確認します

毎月の収入	
給料（夫）	252,836 円
給料（妻）	158,324 円
収入合計	411,160 円

収入は、給与明細や通帳で確認しましょう。

### STEP2 毎月の貯蓄を確認します

貯蓄の目的	毎月の貯蓄額
住宅資金 （7年間で頭金500万円を用意する計画の場合）	60,000 円
自動車購入資金 （10年間で頭金200万円を用意する計画の場合）	18,000 円
合計	78,000 円

### STEP3 毎月の支出可能額を確認します

毎月の収入 + 毎月の貯蓄額 = 333,160 円

### STEP4 現在の支出を把握します

毎月の支出	
電気代	5,968 円
ガス代	7,632 円
水道代	6,200 円
携帯電話代	15,204 円
自動車関係費	23,563 円
新聞代	3,570 円
住居費	75,000 円
インターネット代	7,240 円
掛金（保険料）	27,000 円
小遣い（二人分）	60,000 円
小計	231,377 円
食費	41,652 円
日用品	14,387 円
その他	24,000 円
小計	80,039 円
支出合計	311,416 円

支出は固定費と生活費に分けて把握しましょう。固定費の多くは口座引き落としになっているケースが多いと思いますので、預金通帳で確認しましょう。生活費については、レシートを保管しておけばある程度把握することが可能となりますので、最低限レシートをもらうことから始めましょう。

毎月の支出可能額より大きくなれば、家計や資金計画の見直しを！